

流域治水の自分事化について

「流域治水」のより一層の推進のために

背景

■水災害を自分事化し、総力を挙げて流域治水に取り組む必要性

・気候変動の影響による洪水流量の増加に対する水災害リスクは河川区域の対策だけでは対応できない。流域治水のより一層の推進のためには、行政機関のみならず、民間企業や地域住民の創意工夫による多様な取組をすることが必要。



議論

■「水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会」の設置

・住民や企業等が自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することに加え、さらに視野を広げ、流域全体の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させていくことが重要。

施策

■「流域治水の自分事化」としてフォローアップ・多様な取組の推進

・多くの関係者を巻き込みながら、創意工夫による独自性の高い、多様な取組を積極的に推進していくために、各種普及施策の推進状況やその効果等についてフォローアップを行い、関係者で共有の上、取組内容について流域治水プロジェクトに反映していく。



「流域治水の自分事化」ポイント①

■水災害について「知る」と「行動」することにはギャップが存在している。これを埋めるためには、自分事として捉え主体的に行動することが必要であり、各自が行動の可能性や有効性を考える素材や機会を提供する施策が必要。

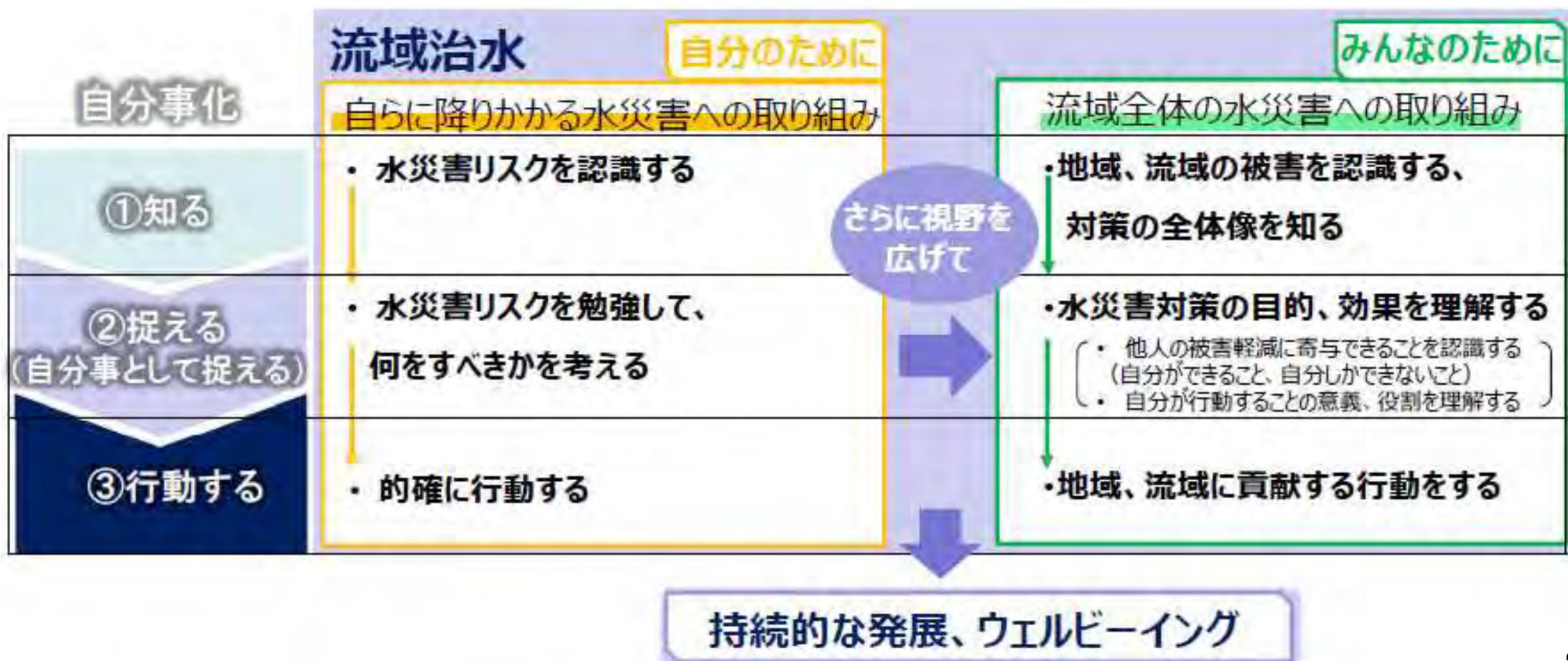


流域治水を推進する上で、自分事と捉えることが課題

「流域治水の自分事化」ポイント②

■自らに降りかかる水災害への取り組みから、さらに視野を広げて、流域全体の水災害への取り組みへと自らの行動を深化させる。

→流域治水に取り組む主体を増やす。



「流域治水の自分事化」の取組内容

#1 取組計画（事務局作成）

- ・「流域治水の自分事化」としてこれから取り組んでいくための計画。
- ・大規模氾濫減災協議会の取組等を参考に作成。

自分事化に向けた取組計画

●●川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和5年度の取組計画を1・2・3の別に記入（横断可）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

①知る機会を増やす
②自分事と捉えることを促す
③行動を誘発する

#2 ロードマップ（事務局作成）

- ・「流域治水の自分事化」の取組の年間ロードマップ。

令和6年度：自分事化に向けた取組のロードマップ

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
山形県議会を連携させる	水災害、流域治水の広報 地域、個人、企業、団体	広報誌で水害・土砂災害 発生、初期の備え		
自分事化の取組を推進する	連携活動 地域、個人、企業、団体	メディアと 管理をわた る協議会 小学校の社会科見学等		
①知る機会を増やす	①リスク情報等の提供 地域、個人、企業、団体	浸水想定 避難場所 危険管理型水位計、監視カメラ		
②自分事と捉えることを促す	①教育活動 地域、個人	防災講話、研修会 小中学校における 防災教育、出前授業		
③行動を誘発する	①訓練活動 地域、個人	住民参加型の避難訓練 ハザードマップの周知および任		
	①計画策定 地域、個人、企業、団体	委託事業者等の選定確保対策 地下空間・地区タイムラインの		
	①水災害対策の支援 個人	市民への土さ の事前配布		
	①水防活動の支援 地域、個人、企業、団体	水防活動拠点整備		

自分事化に向けた取組のフォローアップ

参考様式 国土交通省

信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会(●●市)

結果報告：具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

①知る機会を増やす
②自分事と捉えることを促す
③行動を誘発する

#3 フォローアップ（各構成機関毎作成）

- ・各構成機関毎の取組状況の確認・共有。

#1～3の3つでフォローアップを行っていき
流域治水プロジェクトへ反映していく



#1 自分事化に向けた取組計画

参考様式 国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure and Transport

●●川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和5年度の取組計画を①②③の別に記入(横断可)

流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- メディアとダム・砂防堰堤等の管理をわかりやすく伝えるための勉強会を実施 (●回、●人)
- 流域市町村の小学校から社会科見学の機会を利用してダム・砂防堰堤等の役割や効果、必要性を説明 (●回、●人)

流域治水の広報

- 広報誌で水害・土砂災害に関する啓発活動を実施 (●市町村、●回)

教育活動

- 自主防災組織等からの依頼による防災講話や、県との連携による研修会等 (●回、●人)
- 分かりやすい教材等を用いた防災教育 (●回、●人)
- 小中学校への防災教育・マイタイムラインを活用した出前講座等の開催 (●回、●人)

リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害計画区域等の公表 (●地区)
- 総合的な防災マップの作成・配布、洪水・土砂災害ハザードマップの更新・配布 (●市、●町等)
- 避難場所や経路等に関する情報の周知 (気象・防災情報の提供)

訓練活動

- 住民参加型の避難訓練を実施 (●市町村、●回、●人)
- ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進の取組

計画策定

- 防災指針(立地適正化計画)の作成・公表 (●市、●町等)
- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
- 地下空間・地区タイムライン、周知 (●市、●村等)

水防活動の支援

- 災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化
- 水防活動拠点整備 (●拠点)

水災害対策の支援

- 災害リスクの低いエリアへの移転支援制度の創設 (●市等)
- 出水期前に希望する市民への土のうの事前配布 (●人)

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

周知、連携活動中心

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

情報提供、教育活動中心

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組めるよう、個人、企業・団体の行動を誘発して

計画策定や具体行動の支援中心

流域治水に取り組む主体を増やす

課題である「自分事と捉え主体的に行動すること」「自らの行動を深化させること」を達成するために6 足りない施策・施策の連動性について見ることができ、より有効な対策ができる。